

## 委員会報告

### 家庭、技術・家庭科学研究委員会

#### 1, 研究テーマ

自ら課題を持ち、知識や経験を生かしながら追究を深め  
生活に生きる力をつける家庭科学習はどうあったらよいか

#### 2, 研究課題

##### (1) 研究授業

平成17年10月12日(水) 須崎市立豊丘小学校  
題材名 「まかせてね今日の食事」～地域の伝統食に目を向けよう～  
授業学年 6学年 授業者 山口理恵子教諭

##### (2) 研究の重点

日頃家庭科の学習や実習に意欲的に取り組み、試行錯誤しながら解決方法を見出したり、友達と助け合ったりしながら学習を進められるが、自分の家庭生活を振り返って課題を見つけようとする意識が高まらない、課題をはっきり持てないままに活動してしまう、学習したことを家庭で実践することが少ないなどの課題が残る、という児童の実態から

具体的な願いや課題の持たせ方と支援のありかた

課題解決に向けた追究の場の設定

自分の家庭生活とのつながりを実感させる素材や題材との出会わせ方の3点について研究をすすめながら題材の展開を検討し研究授業を行った。

#### 3, 指導の実際

##### (1) 具体的な願いや課題の持たせ方のありかた

調理実習の願いとして子どもたちは「おいしい」「上手に」という言葉で表現することが多いため、実際の実習場面では調理の手順に追われ何をどう工夫するということまで活動を絞り込んでいくことができないことがある。そこで教師の示範や試食した見本を思い出させながら、「おいしい」にはどんな要素があるのか考えさせた。この活動によって、例えば「粉ふきいも」であれば、おいしくするには、味付け・ほくほくするゆで方・やわらかさ・粉の吹かせ方がうまいくことなどと願いを具体的にし、それぞれの願いを達成させるための方法として塩の分量、ゆでる時間などに目を向けていくことが出来た。

研究授業では、豊丘地区の郷土料理「ひんのべ」を取り上げた。作り方を地域の名人の方に示範していただき、調理中もアドバイスをいただいた。また教師側で用意したヒントカードや団子の見本も参考にしながら「やわらかい団子のひんのべ」を作るための課題(こね方、ねかせ方、のばし方など)を具体的に持って実習に取り組む児童の姿が見られた。

##### (2) 課題解決に向けた追究の場の設定

一つめの追究の場として、「繰り返し調理」を行った。1回目の調理実習では教科書の作り方通りに作ろうとこだわりすぎてしまったり、うまくいかなかったりした経験から、2回目の実習では、前回の経験をいかして自分が注意しなければならない点を意識しながら実習に取り組む姿が見られた。

二つめの追究の場としては「課題別グループ」での実習を行った。「じゃがいもの切り方を気をつけたい」という共通の課題を持ったペアでは、前回皮がうまくむけなかったA児にペアのB児が指の動かし方をやってみせながら教えることで、A児も意欲を持って取り組めたり、前回じゃがいもの大きさがバラバラで火の通り方が違ってしまったB児は、A児に切る厚さをアドバイスしながら自分の「大きさに気をつける」という課題を確認するなど、お互いの経験から考え合ったり助け合ったりする姿が見られた。

研究授業では、1回目の実習で団子が固く生煮えになってしまったことから、おいしいひんのべにするために、やわらかい団子を作りたいと願いをはっきりさせ、やわらかい団子にするための課題（方法）が同じ児童でペアを組んだ。2回目の実習では名人の示範やアドバイスをもとに、ペア同士で自分たちの課題を確認しながら追究する姿が見られた。

#### (3) 自分の家庭生活とのつながりを実感させる素材や題材との出会わせ方

普段身近なものや当たり前と考えがちなことについて、見過ごされてしまいがちな良さ（栄養的価値、保存性、調理方法など）や課題（その食品が嫌いな家族にも食べてもらえる工夫など）について触れながら素材や題材に出会わせることで、自分の家庭生活においてよりよい工夫や実践へとつながっていく姿が見られた。

今回取り上げたひんのべは郷土料理とはいえ、児童にとって最初はなじみ深いとは言えなかったが、総合的な学習の時間との関連や名人のお話から、農作業で忙しく遅く帰ってきても短時間で簡単に作れ、栄養のバランスがとりやすいというひんのべの良さや、家にある材料や家族の好みに合わせて工夫ができる良さを実感させることで、家庭での実践意欲が高まった。

#### 4, この事例から明らかになったこと

- ・ 示範や試食、教師の問いかけなどの支援で願いや課題を明確にし、具体的な課題を持つことにより、これまでの知識や経験を生かしながら、自分なりの見通しを持ち課題を追究できる。
- ・ 同じ課題を持つ者同士のペア学習により、追究していこうとする事についてお互いにアドバイスをしたり考えを話し合ったりして願いに近づく追究ができる。
- ・ 同じ素材を使った調理や同じ調理の繰り返し、課題の深まり、素材や調理の知識・技能の確かな力の定着につながる。
- ・ 自分の家庭生活とのつながりを実感させる素材や題材と出会わせることや、願いを達成したり課題を解決したりしながら自信を持つことで、家族に思いを寄せながら学んだことを実践しようとしたり、問題意識を持ちよりより工夫をしていこうとすることができる。

#### 5, 来年度への課題

- ・ 授業時数が少ない中で、総合的な学習の時間と関連づけて題材を工夫していくことが必要になってくると思われるが、その際に家庭科、技術・家庭科でつけるべき力と総合的な学習の時間でつけるべき力、教師側で教えるべきことと、児童生徒が考え工夫するべきところの見極めや洗い出しをしっかりとっていく必要がある。
- ・ 児童生徒同士がアドバイスし合って追究しながらも、自分一人でも家庭で応用できるような力をつけさせるためのペア学習のあり方。
- ・ テーマ等については、授業校の児童生徒の実態や平成20年度に予定されている全国大会と関連させながら考えていきたい